

# 児童生徒一人ひとりが今、主体的に活動できることを大切にした授業づくり (1年次)

## — 小学部, 中学部, 高等部での学びをつなげる —

田村典子・稗貫真理子・山口美栄子・

伊藤慎悟・伊藤嘉亮・杉本まゆき\*\*, 名古屋恒彦\*

\*岩手大学教育学部, \*\*岩手大学附属特別支援学校

(平成27年3月6日受理)

### 1. はじめに

本校では、平成7年度より学校教育目標に「主体的に生きていく人間の育成を目指す」と掲げ、その達成を目指し、児童生徒が主体的に活動する姿は児童生徒一人ひとりの力を十分に発揮できる授業を行うことで実現できるということを明らかにし、授業づくりを行ってきた。

そして、平成22年度から4年間にわたり、全校研究としてキャリア教育を取り上げ、児童生徒が卒業後の生活で主体的に生きる姿を目指し、授業づくりの充実を目指してきた。その結果、児童生徒一人ひとりの力を小学部、中学部、高等部で積み重ねることが必要であることが明らかになった。

今年度から、学校教育目標に「今」という視点を盛り込み、「将来の社会生活において主体的に生きていく人間の育成を目指す」を「現在及び将来の社会生活において主体的に生きていく人間の育成を目指す」とした。そこで、本研究では、「今の授業」で主体的に活動する姿を目指し授業づくりの充実を目指していこうと考えた。

また、学校経営方針では、「小学部、中学部、高等部それぞれのライフステージに応じた教育を行うとともに、各学部の連携を密にし、連続性のある教育の充実を図る」と明記している。このことについて、各学部がお互いの取り組みについて理解し合い、各学部での取り組みを充実することが「小学部、中学部、高等部のつながり」となると捉えた。

そこで、本研究では、つながるためには、「今の授業」で児童生徒が主体的に活動することを指そうと考えた。

以上のことより、本研究は学校教育目標の達成を目指し、児童生徒一人ひとりが主体的に活動できる授業づくりを行うことを目的にした。

### 2. 方法

#### (1) 授業研究会について

児童生徒が主体的に活動できる授業づくりについて全校で共通理解できるように検討してい

く。

授業研究会は、11～12月に行われた授業参観週間において、各学部3授業、全校で9つの授業を以下の通り実施した。

①小学部 学部研究会 12月1日(火)

参観授業 12月1日(月)～5日(金)

学級	単元名・活動内容
たんぼぼ組	「クリスマス会をしよう」 ○クリスマスランドを作ろう
すみれ組	「クリスマス会をしよう」 ○みんなが喜ぶ飾りを作ろう
つくし組	「クリスマス会をしよう」 ○プレゼントを作ろう

②中学部研究会 12月24日(水)

参観授業 12月15日(月)～19日(金)

学年	単元名・活動内容
1年	「おやつを作って販売し、みんなで校外学習に行こう」 (内容) 簡単な調理と販売を繰り返し、最終日には校外学習を計画する。
2年	「そうだ旅に行こう～盛岡市内編～」 (内容) 校外学習を通して住んでいる街について調べ、新聞にまとめる。最終日には発表会を行う。
3年	「ケーキを販売して、ご苦労さん会をしよう」 (内容) 調理と販売に繰り返し取り組む。 ～全校授業研究会提案授業～

③高等部 学部研究会 11月28日(金)

参観授業 11月25日(火)～28日(金)

作業班	活動内容
工芸班	ウッドラック製作
受託班	フルーツキャップの組み立て
手織班	織り布、マフラー作り

④全校授業研究会 12月18日(木)

中学部3年生 生活単元学習

(2)指導形態別研究会について

3学部が集まり、つながりのある教育課程になるよう見直しを行う。

指導形態別研究会は7月、10月、1月に以下の通り、3回実施した。

①7月(夏季休業中):各学部の授業について情報交換をした。また、教育課程の年間指導計画におけるねらいや指導に当って、年

間指導計画について共通理解を図る。

- ②10月31日(木)：各指導形態における主体的な姿について検討し、教育課程の見直しの方向性を決め、課題点について挙げた。
- ③1月29日(木)：学部研での検討を受けて、教育課程の見直しのおまとめをする。(平成27年度教育課程として提案できるように準備する)

### 3. 結果

#### (1)

授業づくりの取り組み

##### ①授業づくりの方法の提示と活用

授業づくりでは、児童生徒が「今」主体的に活動できる授業づくりについて全校で共通理解して取り組むことができるように「授業づくりの方法」を提示した。この「授業づくりの方法」においては授業づくりを5つのプロセスに整理し、それぞれに授業づくりの視点を示した。

この「授業づくりの方法」を基に授業づくりを行うことができるように指導案の項目と授業づくりのプロセスを対応させた。(表1)

11～12月に行われた授業参観週間において「授業づくりの方法」に基づいて授業づくりを行った。各学部3授業、全校で9つの授業を提案し、全教員が他学部の授業を参観した。

参観に当って、参観者は授業についての質問や意見について付箋に記入した。質問意見については授業づくりのプロセスごとにカテゴリー分けをして模造紙に貼り付けた。この意見等は、学部研究会での協議で参考にした。

これにより全校で児童生徒の主体的に活動する姿を目指した授業づくりを同じ手順で同じ視点を持ち行うことができた。

##### ①学部研究会

前述の授業参観週間の授業について各学部毎に授業研究会を行った。各学部での話し合いの様子を以下の通りまとめた。

#### 小学部 ( )「授業づくりの方法」のプロセス

- ・児童が主体的な姿について、どのような姿か話題になった。(①単元の設定)
- ・児童が主体的に活動するために担当者で褒める内容やタイミングを吟味することが大切である。(④活動内容への支援)
- ・児童が見通しをもち活動できる指導計画とはどんなものか話題になった。
- ・主体的に活動をするためには、児童が取り組む活動について見て分かるような場の設定をすることが必要だと確認された。(④活動内容への支援)

#### 中学部 ( )「授業づくりの方法」のプロセス

- ・分かって活動するため、一人でできるため、自分から活動に取り組むためなど、主体的な取り組みのための支援について、どうするか話題になった。単元内で活動を繰り返す、同じ単元を繰り返すなど考えられる。(①単元設定、②単元題材の計画)
- ・生徒個々の活動量に差が出ることから、日程計画や個々の活動内容をどのようにしていくか話題になった。(③活動内容)
- ・授業者の思いから授業づくりをする場合、何を目標にするか、中心の活動を何にしていきたいか整理していく必要がある。指導案にもそれを表現していくことが大切である。
- ・指導案での生徒の目標について抽象的な表現になってしまっているため、具体的な生徒の姿について話し合った。(①単元の設定、②単元の計画)

#### 高等部 ( )「授業づくりの方法」のプロセス

- ・作業工程や役割分担について協議された。1つの製品作りで生徒が工程を分担して行う方法に改善した作業班では作業班としての活動が生徒に分りやすくなったと授業が改善された様子が話された一方で、一人で1製品を作り上げる方法で行っている作業班では、製品作りに関わらない仕事をする生徒がいることなど作業の役割分担に課題を抱えていることが話題になった。(③活動内容、④学習内容への支援)
- ・作業では道具置き場の整理、配置、教材教具を整えたり、教師の役割や配置について話し合ったり、その大切さについて話題になり、その大切さについて確認された。(④学習内容への支援)
- ・作業を毎日繰り返すことの大切さや、同じことを繰り返す作業において何を目標にして作業をしているか協議された。(①単元題材の設定、②単元題材の計画)

##### ②全校授業研究会

授業参観週間の授業の中から中学部3年生の生活単元学習の授業について全校授業研究会を行った。「授業づくりの方法」に基づいて指導案を作成し、授業づくりを行った。この研究会は、ワークショップ形式で行い、3グループに分かれ協議を行った。授業についての意見等を「授業づくりの方法」に示されている授業づくりのプロセスごとにカテゴリー分けを行い、グループごとに授業についての成果と課題をまとめた。各グループの話し合いの様子を以下の通りまとめた。

全校研究会 ( )「授業づくりの方法」のプロセス

#### Aグループ

- ・単元の目標を達成するための活動内容になっていて良かった。また、生徒の単元の目標の内容について、具体的でないが教師間で共通理解されていたので良い。(①単元設定, ②活動計画)
- ・教材・教具, 動線の工夫等限られた環境の中でよくできていた(④活動内容への支援)
- ・生徒の活動内容や手立ては工夫の余地がある。(③活動内容)
- ・二人一組での活動にしたことに関してグループピングの工夫と手立てが良かった,(⑤協働的活動への支援)
- ・教師の役割や配置も授業において, 共に活動する仲間であり, 生徒の活動を優先してサポートに回ったりして有効だった。(⑤協働的活動への支援)

#### Bグループ

- ・単元期間について, もっと長かったらよかったが, 短いことでそれに応じた計画ができて良かった。(これまで何度か単元を繰り返して来ている)(②活動計画)
- ・作るケーキを自分で選ぶ, 注文の取り方, 試食などについての意見があった。(T1か生徒の活動への願いから単元期間中の活動を整理した)(①単元設定, ②活動計画)
- ・授業については, 視覚支援が充実していること, 生徒一人ひとりへの支援が多すぎず少なすぎず丁度良かった。(④活動内容への支援)
- ・活動をペアにしたことで協力, 待つ・教えるなどの関わりがありメリットがあった。(⑤協働的活動への支援)

#### Cグループ

- ・なぜケーキ作りの活動にしたか, それに加え販売やご苦労さん会があることでねらい(メインの活動とゴールの提示)が分かりにくいのではないか。「ケーキを作って販売しよう」にしてはどうか。(①単元設定, ②活動計画)
- ・生徒が自分の力を発揮していくためには2週間の期間では短い。(②活動計画)
- ・手順表, 道具の配置, 教材教具の工夫など良く考えられていた。
- ・経験を踏まえた活動内容で自信をもち取り組んでいた。(③活動内容)
- ・友だちとペアで活動したり, 教師は生徒の活動をスムーズにするための役割を担うことで流れがスッキリし, 活動しやすかった。(⑤協働的活動への支援)

## (2) 教育課程の見直しの取り組み

指導形態別研究会において教育課程の検討を行い, 以下の通り改善点が上げられた。

### 遊びの指導・生活単元学習・作業学習

#### <小学部>

- ・春の遠足やクリスマス会の取り組みについて見直す。
- ・5時間目の生活単元学習について時間割の見直しをする。

#### <中学部>

- ・次年度は学級生単のあり方について取り組んでいく。
- ・中学生として社会と関わるができる大切な機会をこれまでは合同生単で取り組んでいた。現在は作業学習の中で販売会を目的にすることで社会とかかわり成果を上げている。生単と作業学習の単元期間は今年度並みとする。

#### <高等部>

- ・作業種を見直したことで, 単元化して作業学習を進めていく。
- ・高等部の作業学習の中心にガンフ工房の運営を置く。
- ・作業学習を単元期間を作業レクや販売会などで区切り, 生徒が作業への見通しがもて, 目的が分かるようにする。

### 音楽

- ・学習指導要領に基づいて「基本的な考え方」や「ねらい」等の見直しを行った。
- ・ねらいは, 学習指導要領の内容に基づいて, 4つの音楽活動を含めたねらいにしていく。
- ・ねらいは「できる」, 「できない」ということより, 取り組む様子を重視するため, 全学部「～に取り組む」という表現にする。

### 体育

- ・教育課程の「基本的な考え方」は学習指導要領に示されている通りにはどうか。
- ・「ねらい」を3学部で揃える。具体的には以下の2点を見直す。
  - \*小学部の「ねらい」(3)で他と重複する部分を訂正する。
  - \*小学部も学習指導要領を基本に「基本的な運動」「いろいろな運動」「きまり・安全」を取り入れていく。
- ・中学部, 高等部の「保健体育」を「体育」に変更し, 3学部揃える。
- ・小学部の年間指導計画については, 軸となる年間計画は作成し, 児童の実態をみなが

ら、合同体育にするかなど検討して進める。

- ・高等部の時間割について、ある程度連続してできるように、毎週体育が実施できる期間を計画した。
- ・「フライングディスク」、「スキー」については、学部共通で取り組むこととする。「フライングディスク」については、中、高等部は大会出場などのきっかけになるように取り組み、小学部の段階では基本的、基礎的な動きに重点を置いて、ディスクにいずれつながる内容で良い。「スキー」については、危険回避、スピードコントロール、停止など小学部から意識して取り組んでいく。

#### 4. 考察

##### (1) 成果

- ・「授業づくりの方法」を提示したことで、児童生徒が主体的に活動する姿を全校で目指し、授業づくりを行うことができた。
- ・「授業づくりの方法」は、授業研究会での検討の視点になった。
- ・指導形態別研究会において3学部の担当が集まり、教育課程を見直したことで、各学部の取り組みを認め合いながら、教育課程の改善に取り組むことができた。また、教育課程の年間指導計画や活動内容などは、授業研究会の話し合いを生かし改善することができた。

##### (2) 課題

- ・「授業づくりの方法」を授業実践や授業研究会で活用し、児童生徒が主体的に活動できる授業について、検討する。
- ・改善した教育課程を授業で実践し、それが小学部、中学部、高等部の学びをつなげることになっているか検討していく。

#### 5. まとめ

「小学部、中学部、高等部の学びをつなげる」ということを本研究では、「児童生徒の主体的な姿を目指す授業を全校で行うことである」と捉えた。そのために全校で「授業づくりの方法」に基づき、授業づくりを行い、授業研究会でその具体的な内容について共有することでこれに迫ることができた。

また、小学部、中学部、高等部がそれぞれの取り組みを認め合いそれぞれの児童生徒のライフステージに応じた取り組みを行うことも学びをつなげることになったと考える。

「今」という視点を取り入れて授業づくりを行ったことで、つながるということは全校で同じ取り組みをするだけでなく、その学部に応じた取り組みをすることも必要であることが明らかになった。

研究の最終年である次年度は「授業づくりの方

法」に基づく授業実践と授業研究会を積み重ね、全校での授業検討の場を多く設定することで、さらに児童生徒が主体的に活動できる授業づくりについて全校で共有していくことが必要である。

#### 謝辞

川村 憲弘先生（岩手県教育委員会事務局学校教育室主任指導主事）、佐藤 淳先生（岩手県立総合教育センター主任研修指導主事）、最上 一郎先生（岩手県教育委員会事務局学校教育室指導主事）におかれましては、本研究の助言者として授業参観週間・学部の授業研究会、全校研究会、第1回公開事前研究会に参加して頂き、貴重な助言を頂きました。深く感謝申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 岩手大学教育学部附属特別支援学校（2007年）「研究紀要第19集」
- 2) 岩手大学教育学部附属特別支援学校（2009年）「研究紀要第20集」
- 3) 岩手大学教育学部附属特別支援学校（2011年）「研究紀要第21集」
- 4) 岩手大学教育学部附属特別支援学校（2013年）「研究紀要第22集」

【表1】授業づくりの方法と指導案の作成

授業づくりのプロセスと内容	授業づくりの視点	指導案作成
<b>①単元・題材の設定</b> 学部目標に基づいて目標を設定	児童生徒の実生活に結びついた単元・題材。 興味関心や願いを取り入れた単元・題材。 活動の流れやつながりが明確な単元・題材。	I 単元・題材名 II 単元の目標 III 単元・題材の設定にあたって
<b>②単元・題材の計画</b> 単元・題材の目標に基づいた活動計画	まとまりのある計画 繰り返すことで活動を積み重ねることができる計画。 発展性のある計画	IV 指導計画
<b>③活動内容</b> 単元・題材の計画を推進するための授業の日程計画や学習内容	集団の中で、人とかかわり、自分の役割を遂行できる活動内容。 自分のもっている力を生かし、やりがいを感じられる活動内容。 自分で考え、行動できる活動内容。 達成感、充実感を得られる活動内容。 自己選択・自己決定できる活動内容。	V 本時の授業 1 本時の指導にあたって 2 本時の展開（学習内容・学習活動）
<b>④学習内容への支援</b> ・教材教具 ・配置、動線 ・教師の連携（T-T）	児童生徒が一人のできる教材・教具。 自分から活動できる教材・教具 十分に組み組める活動量と時間 活動しやすい道具の配置、動線 児童生徒が一人のできるように教師を配置	V 本時の授業 1 本時の指導にあたって 2 本時の展開（指導上の留意点） 3 配置図 VI 個人の目標及び支援
<b>⑤協働的活動への支援</b> ・仲間同士のかかわりへの支援 ・教師とのかかわり	共に活動する友達に関心に向け、友達や教師と共に活動できるようにする。 教師は児童生徒と共に活動し児童生徒が一人のできる状況をつくるような適切なかかわりをする。	V 本時の展開 1 本時の指導にあたって 2 本時の展開（指導上の留意点） 3 配置図 VI 個人の目標及び支援